

学力はこうすれば伸びることは 分かっているのですが…

都会では多くの中学生が学習塾に通っています。田舎に住んでいる我々は「学校で勉強した上にまだ塾まで行くのか。一流の大学や会社に就職するためには都会の子は大変だな。」と思いがちです。また中には「学校の先生は信用されていないなあ。塾の先生の方が教え方が上手なのか。」と思われる方もおられることとでしょう。

実はこの考え方には大きな間違いがあります。塾には塾の学校にない大きな魅力があります。それは何かというと「丁寧な個別指導」をしてくれることにあります。

例えば、小学校で習っているはずの分数の計算でつまづいている生徒がいるとします。できればその段階に降りてあげて、もう一度ゆっくり学習させたいのはやまやまなのですが、学校にはカリキュラムがあります。いかんせん次に進まなければならないのです。つまり一人一人の能力に応じた指導は学校では限界があるのです。そこで、塾に行き得ない部分や理解できていない部分を親切丁寧に教えてもらった方が大きな効果が得られるのです。ですから、学習塾や家庭教師は学習につまづいている生徒の方にメリットがあると言っていいでしょう。できる生徒は一斉指導でも理解できるし、つまづきがないため自分でどんどん先に進めばいいのです。

みなさんは「ビリギャル」や「ドラゴン桜」を読みましたか？どちらも映画にもなりましたね。どちらもとんでもなく低学力だった生徒を慶応大学や東京大学に入れる話です。本校の職員の多くが読んでいましたし、学校の図書館にあるのでまだの人にはぜひ読むように勧めました。

この二つの作品には共通する部分が多くあります。どちらも完全な個別指導で先生がつまづいている部分を把握し、その段階まで降りて教えます。主人公は高校生ですが、小学生ぐらいの内容から始めます。そして簡単な問題を繰り返し解かせて、できたらおおいに褒めます。

今まで勉強が不得意だった生徒は勉強で褒められる経験がありません。できた喜びを味わわせ達成感や成就感を与えます。本人のわかるようになったという実感と他者からの賞賛の言葉の両輪があいまって初めてやる気のスイッチが入り、モチベーションが上がるのです。そして、また少しだけステップアップした課題を与えてこのサイクルを繰り返します。

(どちらも家庭の協力も大きいものがありましたね。そして、結構感動的だったりました。)

裏面に続く



2017/05/29

NO.3

学力向上のために我々にできること



それなら「ビリギャル」や「ドラゴン桜」のような指導を学校でもやればいいのではないかと、思われるかもしれませんが、それは果てしなく難しいのが現状です。なぜなら二つの作品の舞台は個別指導が可能な学習塾と私立高校だからです。「ドラゴン桜」はたった二人の生徒のために受験界のエキスパート講師を招集します。

しかし、私たち公立の中学校では30人前後のクラスを担当します。4～5クラスを受け持つと100人を優に超えます。この生徒一人一人に合わせた課題を提示し、一人一人に寄り添って丁寧に指導するには時間もマンパワーも足りないのです。

ですから、我々は別の方法を模索しています。今までの授業のあり方を振り返り、もっと効率の良い方法はないものか。全員が集中して課題に取り組み、理解できない部分をみんなで解決するような学習形態がとれないものか。家庭学習では能力や個に応じた課題が与えられないか。などが今年の本校の研究課題となっています。

小学生のころ、とても難しいと思っていた問題を今解いてみると「なんでこんなことがわからなかったのだろう。」と思うことがあります。小学生のときに読めない漢字が多かった教科書も、今の中学生なら難なく読むことでしょう。学力を伸ばす一番良い方法は分かっているのです。繰り返し言いますが、つまづいているところに帰り、スモールステップで丁寧に教える。本人にわかった、できたという実感を与える。そして、おおいに褒めてやる気を育てる。そしてまたステップを少し上げてこのサイクルを繰り返す。これがベストなのです。

いよいよ3年生は修学旅行（7日～9日）、1、2年生は校外学習（8日）が目の前に迫ってきました。旅行業者と綿密な打ち合わせのもと、安心して安全な行程に努めます。なお、町内の小学校ではインフルエンザが流行っているようです。楽しい旅行や活動にするためにもご家庭での生活のリズムを崩さぬようご注意ください。

